

給水配水一体化ご採用事例



三郷市は埼玉県の東南端に位置し、東に江戸川、西に中川と水に囲まれた土地で、北は吉川市、西は草加市と八潮市、南は東京都葛飾区、東は千葉県松戸市と流山市に接しており、東西5.6km、南北9.5kmの低平地で平坦な地形になっております。

市内には、鉄道駅としてJR武蔵野線の三郷駅と新三郷駅、つくばエクスプレスの三郷中央駅があり、自動車道としては、三郷ジャンクションを中心に首都高速道路や常磐自動車道、東京外郭環状自動車道が通っており、都心から20km圏内という地理条件に加え、このような交通の利便性の高さから、大規模開発が次々に行われております。

三郷市の水道事業は、昭和31年6月に彦成地区、昭和33年3月に東和地区、昭和33年9月に早稲田地区と、3地区の簡易水道が創設認可されたことにより始まりました。

その後、急激な人口の増加に対応するために、昭和41年3月に行政区域全域を給水区域として、上水道事業が創設され、創設後も更なる人口増加に対応するために、第2期から第4期の拡張事業認可を経て、平成29年9月1日時点で141,225人となっております。

三郷市では、平成14年度以降、導・配水管整備において、耐震管を採用しており、平成29年度末における導・配水管の総延長は599.68kmで、その内、耐震管の延長は219.2kmであり、耐震化率は36.6%(平成26年度は28.1%)となります。

また、耐震管の管種については、口径200mm以上をダクタイル鋳鉄管(GX形・NS形)、口径150mm以下は水道配水用ポリエチレン管を採用しており、水道配水用ポリエチレン管は、耐震管に定義された平成16年度以前からの本採用で、埼玉県下では最も早く採用した事業者です。

給水管については、口径50mm未満は、小口径にポリエチレン2層管、口径50mm以上は、水道配水用ポリエチレン管を採用し、本管が水道配水用ポリエチレン管の場合には、EFサドル分水栓による融着接続を行っていました。また、平成24年度からはポリエチレン2層管との接続もEF融着接続として耐震化を進めており、配水管だけではなく、給水管も含めた一体的な耐震化を進めております。